

ラパスの便利
日本海

永松 利文

「パハ・カリフォルニアはメキシコで一番新しい州です」。歴代州総督・知事の肖像画が掲げられている知事会議室で、秘書室長のホアン・カルロス・ペトリデスさんが説明してくれた。

このプログラムは今年で4年目だが、州庁舎を訪れたのは今回が初めてだ。乾燥地の公営経済の計画調査のため訪問した。まずソーシャル・コミュニケーション・センターを訪れ、州民との最初の窓口であることの説明を受け、教育、文化、健康、福祉、スポーツ等の概要を聞いた。なかでも新型インフルエンザへの対処は、発症国でもあり、

教育機関等の予防措置、問、普段入れない知事室の迅速な対処が取られ、執務室、知事しか立ち入れない緊急通路等を特別に見せていただいた。また、独立記念日など特別な行事にのみ知事や議会議長などの要人が出席する「貴賓席ベランダ」へも立たせてもらった。

公務員の仕事に誇り 「目的は奉仕」共通認識

見学の合間、冒頭の秘書室長や職員と懇談したが、日本のそれと大きく異なると思った点は公務員としての立場に誇りを持っていること、同時に仕事にやりがいを感じていることだ。彼らは「公務員こそ究極のサービス業」だという。人々のために奉仕するということが仕事の目的なので、やりがいのある仕事であり、人々へサービスするという共通認識を持っている。

公務員が日常に施される、仕事の意義を喪失する。結果、自身の生活の安定のために空虚な事務仕事をしていると感じてしまった時こそ、人々へのサービスが低下し、役所の活力も低下するのではないかと。精神的に説明を続けるペトリデスさんを見ながら考えさせられた。(鳥取大学)



州庁舎正面。2010年の独立200周年に向けたカウントダウンが始まっている